

グラン・アルシュは新凱旋門と呼ばれているが、れっきとしたオフィスビルである。

グラン・アルシュはミッテラン大統領のパリ大改造計画「グラン・プロジェ」のひとつとして1989年に建設された。設計者はヨハン・オットー・フォン・スプレッケルセンというデンマーク人で、エトワール凱旋門を強く意識し、そのエトワール凱旋門、シャンゼリゼ通り、ルーヴル美術館と一直線上に貫く軸線に作られている。

エトワール凱旋門をバスで訪れたときに、門のずっと先にあるグラン・アルシュの迫りに圧倒され、エトワール凱旋門本体よりもそちらの方に目が奪われるほどであった。

巨大なキューブからなり、一辺は110mで中央がヴォイドになっている。外壁には、大理石が張られ、白く輝いている。ポイドの中には、エレベータシャフトが立ち、雲を表したテフロン製の幕が、吊られている。形はとてもシンプルなものだが、そのシンプルさがさらにその迫力を増しているように感じた。遠目から見ると、その大きさばかりに目がいってしまうが、近くで見ると内側には細かい連続窓、エレベーターと幕の繊細で華奢なつくりが印象的であった。

